

# 二月のご案内

〒567-0012 茨木市東太田二丁目九一二  
TEL 072-533-5555 FAX 072-533-5575  
浄土真宗 本願寺派 西福寺

温もりに誘われて咲きそろった梅が、今は厳しい寒さを耐え忍んでいます。  
皆様には如何お過ごしでしょうか。  
平成二十八年二月のご案内を申し上げます。  
第二百五十五回

## 人生講座

日時 二月十四日(日) 昼二時〜四時  
講師 本願寺派布教使

### 巖水法乗 師



■巖水(いわみず)先生、六十六歳。平野区・浄覚寺住職。九州大分の大坊・流芳寺生れの熱血僧です!ご布教はもちろん、教誨師、篤志面接委員として撰取不捨の心で刑事施設収容者の懺悔の想いに寄り添っておられます。

■お誘いあわせの上、こぞってお参り下さい。

### ● 帰敬式(きききょうしき)を受式しましょう。

帰敬式とは、阿弥陀如来・親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、お念仏申す日暮を送ることを誓う、私たちにとって最も大切な儀式です。この帰敬式を受式され、仏弟子となった方に本願寺住職(ご門主さま)より法名が授与されます。帰敬式を受式し、共にお念仏を喜ぶ人生を歩みましょう。

1. 執行日 1月1日・1月16日の晨朝後、1月8日・12月20日の終日を除く毎日2回
  2. 執行時刻 午前の部:晨朝後引き続き/午後の部:午後1時30分
  3. 受式申込 午前の部は晨朝前、午後の部は執行時刻の1時間前までに参拝教化部まで
  4. 冥加金 成人:10000円/未成年:5000円
- ※詳しくは住職までお問い合わせください。

# インドから日本へ

仏教の思想と文化

龍谷ミュージアム  
RYUKYU MUSEUM  
平常展

2016. 3/5-27

インドで仏教が誕生してから日本に至るまでの仏教の2500年の歩みを、大きく「アジアの仏教」と「日本の仏教」に分けて通覧します。多様な民族の顔に表現されたほとけたちのすがた、さまざまな言語に翻訳された、異なる文字で記された経典、地域を超えて共有されてきた物語などは、何より雄弁に仏教を取り巻く世界の広がりや繋がりとを伝えてくれることでしょう。

伝燈奉告法要団体参拝\*平成29年4月28日

## 正信偈のつづき ⑦

◆本願名号正定業 至心信樂願為因 成等覚証大涅槃 必至滅度願成就

【意訳】本願成就のそのみ名を 信ずるところひとつにて ほとけのさとひらくこと 願い成りたるしるしなり

「本願名号正定業」とは、阿弥陀仏の名号は、十方の諸仏に我が名を褒められるようにと誓われた第十七願がすでに成就し、現にはたらいっており、私たちが往生成仏するために阿弥陀仏より回向された真実の行である。

「至心信樂願為因 成等覚証大涅槃 必至滅度願成就」とは、第十八願の真実の信心を得た時、ただちに正定聚となる。等正覚にいたり涅槃を証することは、第十一願の必至滅度の願が成就されているからである。このことを平生業成という。したがって、正定聚の者は、仏になることが定まり、もはや退くことがない。これが現世における利益である。滅度とは、涅槃の境界である。これは、浄土での利益である。『高僧和讃』に「願土にいたればすみやかに/無上涅槃を証してぞ/すなわち大悲をおこすなり/これを回向となづけたり」とあるのは、このことである。

◆如来所以興出世 唯説弥陀本願海

五濁悪時群生海 応信如来如実言

【意訳】教主世尊は弥陀仏の 誓い説かんと生(あれ)れたもうに ござりし世にしまどうもの おしえのまこと信ずべし

釈尊は、ひとえに阿弥陀仏の本願を説き開くためにこの世にお出ましになった。五濁悪世界の衆生は阿弥陀仏の本願に、ただひたすら信順すべきである。